

小 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

# 教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

# 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究方法	
	1 研究構想図	2
	2 研究の進め方	3
IV	研究内容	
	1 「実感のある学び」を実現し、「学びをつなぐ」四つの学習活動	3
	2 発問の工夫	4
	3 具体的な手だて	4
V	実践事例	6
VI	研究の成果と課題	16

## 研究主題

# 音楽の学びを実感し、 次の学びに自らつないでいくことのできる児童の育成 ～児童の視点に立った指導の工夫を通して～

### I 研究主題設定の理由

令和2年度から、平成29年3月に公示された新学習指導要領が全面実施となる。

今回の学習指導要領改訂では、「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」と示されている。これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組が必要である。

小学校学習指導要領（平成29年3月）では、授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」が挙げられている。この授業改善の実現の鍵の一つとして、「見方・考え方」を働かせることが重要となる。音楽科で育成を目指す資質・能力の育成には、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習活動に取り組めるようにする必要がある。この学習活動を通して培われた「音楽の学び」が積み重なることで、やがて児童が音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることにつながる。

一方、本年度の研究員や研究員が所属する地域の授業実践を振り返ると、児童が共通事項を基に「音楽的な見方・考え方」を働かせて表現を工夫したり、学んだことを次の学びに生かしたりすることが十分にできていなかった。また、教師は児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学びをつなげ、深めるための学習活動や発問の工夫が十分にできていない、という課題が見えてきた。

本研究では、児童が音楽の授業で培った学びを授業と授業、題材と題材の間で自らつなげていくために、実感のある学びが重要であると考えた。そして、そのための授業改善には児童が思考・判断・表現する一連の過程を踏まえた指導の工夫、すなわち児童の視点に立った指導の工夫が必要であると考え、研究主題を設定した。

### II 研究の仮説

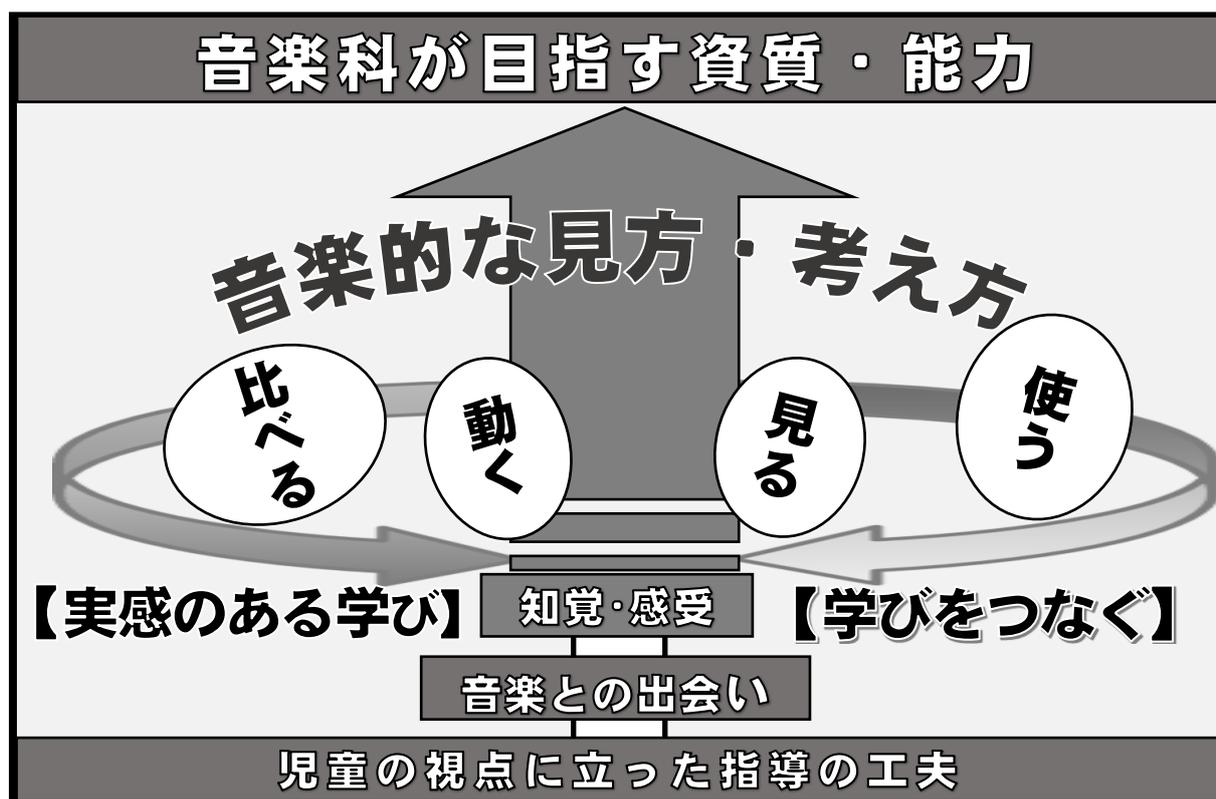
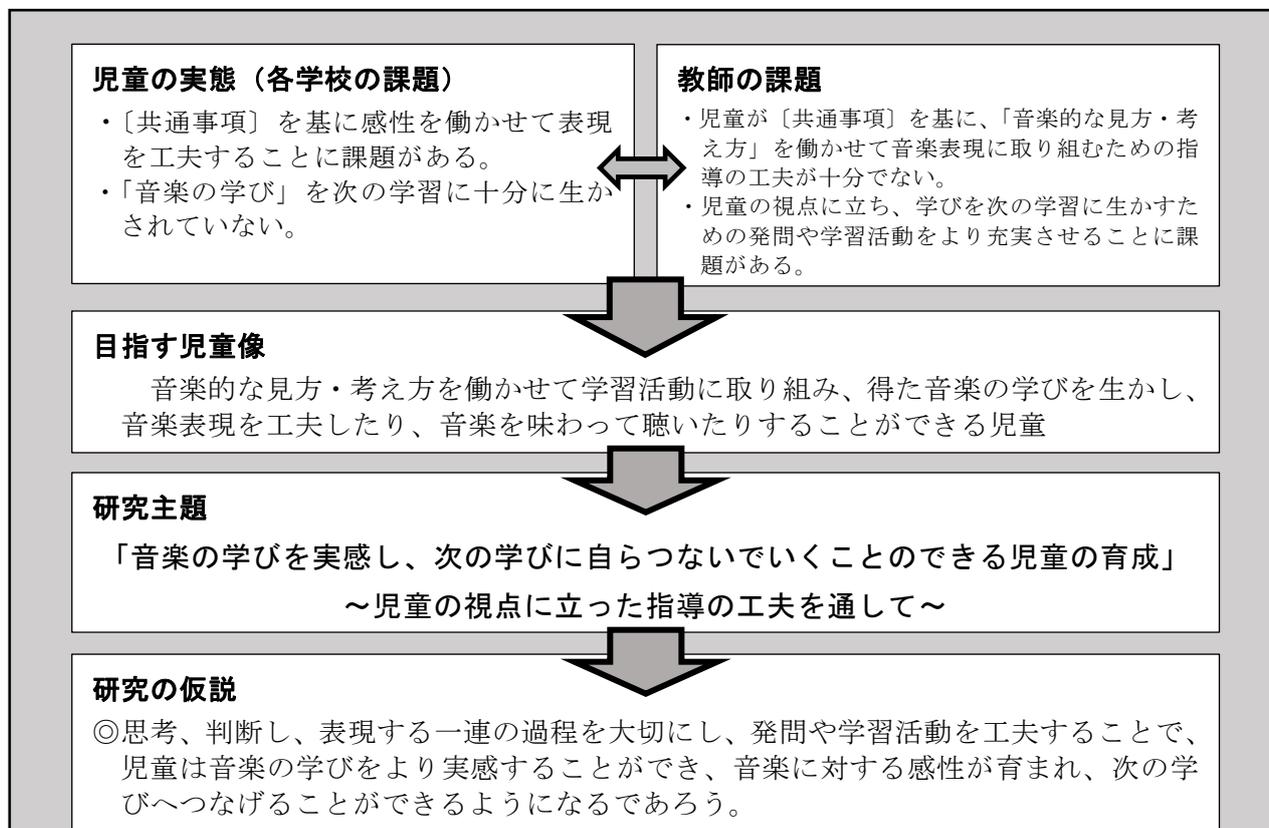
本研究では、「音楽的な見方・考え方を働かせて学習活動に取り組み、得た音楽の学びを生かして音楽表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることのできる児童」の育成を目指している。そのための授業改善の手だてとして、児童が思考・判断・表現する一連の過程を大切にされた発問と学習活動の工夫が必要であると考えた。

そこで、本研究の研究仮説を以下のように設定した。

「児童が思考・判断・表現する一連の過程を大切にし、発問や学習活動を工夫することで、児童は音楽の学びをより実感することができ、音楽に対する感性が育まれ、次の学びへつなげることができるようになるであろう。」

Ⅲ 研究方法  
1 研究構想図

**全体テーマ** 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善



## 2 研究の進め方

はじめに研究員のこれまでの授業実践から、児童の実態と教師の課題を整理し、本研究における目指す児童像と研究主題を設定した。その後協議を進めていく中で仮説を立て、具体的な指導の工夫を開発した。

小学校では中学年から音楽専科の授業が始まる学校が多く、高学年以降のより充実した音楽活動の実現のためには、児童が実感をもって学ぶ学習の経験がなくてはならないと考え、効果を検証する授業は中学年において実施することとした。

研究を進めるに当たっては、参考文献などを追究したり、学習指導要領についての理解を深めたりするなど、基礎研究にも取り組んだ。

## IV 研究内容

本研究では、児童の「実感のある学び」を実現し、「学びをつなぐ」ために、児童の視点に立った、すなわち児童が思考・判断・表現する過程を踏まえた発問や学習活動の工夫を行った。授業中、児童は学んだことに自ら気付きうれしそうに発言したり、前時の学びを生かして表現しようとする姿を見せる時がある。そのような児童の姿を各学校において観察し、どのような学習活動を行っているときに学びを実感しているか、学びをつなぎ活用しているかを分析した。その結果、有効な学習活動について次の四つに整理した。

### 1 「実感のある学び」を実現し、「学びをつなぐ」四つの学習活動

児童の 学習活動	児童の姿の一例	
	実感のある学び	学びをつなぐ
比べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を特徴付けている要素を、反映させた演奏としない演奏の曲想の違いを聴き比べることで、要素を生かした表現のよさを実感している姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲と題材で学習する曲で、音楽を特徴付けている要素と曲想との関わりを比べているとき、他の既習曲とも学びをつなげている姿が見られる。</li> </ul>
動く	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律の動きを、体を使って大きく表現することで、旋律の上行・下行や重なりなどを実感をもって理解している姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲について体を使って表現し理解した経験を、その後の題材で学習する曲についても体を動かして理解を深めることができるのではないかとの予想につなげている姿が見られる。</li> </ul>
見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材で学習する曲に関連させた写真や絵を見ることで、曲についてのイメージを実感し、表現したい思いや意図についてより具体的に思い描く姿が見られる。</li> <li>自分の発言を自ら拡大楽譜に書いたり友達が書いた考えを見ることで、様々な感じ方があることを実感し、より考えを深めようとする姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で書いた自筆の考えを、次時に見ることで、授業間のつながりを自ら意識する姿が見られる。</li> <li>他の題材や前時での学習で使用した掲示物を見ることで、過去の学習内容だけでなく、経験した学びの過程を生かしてつなげている姿が見られる。</li> </ul>
使う	<ul style="list-style-type: none"> <li>創意工夫した音楽を表現するために必要な技能に気付いたとき、それを繰り返し試したり聴き合ったりすることで、思いや意図が音楽で表現できることを実感する姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気付いたこと、学んだことをことをすぐ音楽で試してみることで、自分の考えたことと表現の工夫をつなげている姿が見られる。</li> </ul>

## 2 発問の工夫

発問については、児童の思考・判断・表現の過程を踏まえ、児童の思いや意図が豊かに表現されるよう、児童の実態や発達段階を考慮する。具体的には、授業のねらいに対して発問を焦点化しながら、多様な児童の思考の方向に応じた追発問や価値付けを準備する。この工夫により、児童の思考・判断が常に音楽の言葉で働き、表現の工夫につながるようにしたい。

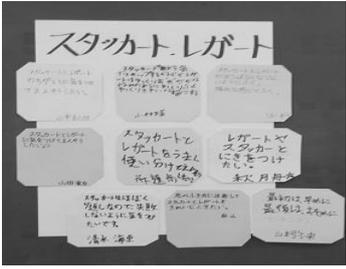
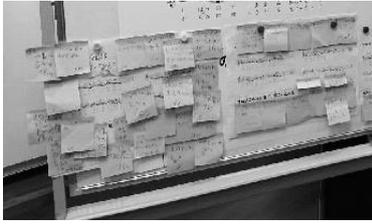
検証授業では、「比べる」「動く」「見る」「使う」の四つに整理した学習活動の中で、教師の発問、追発問及び価値付けの意図を指導案に明記した。児童のつぶやきも含めた発言や表現する姿について記録し、児童が自ら学びを実感したり、学びをつなげたりしていたかを検証した。

## 3 具体的な手だて

二つの観点によって整理した手だてを検証するために、検証授業において以下のような学習活動や指導の工夫を取り入れた。

児童の学習活動 (C)	教師の手だて (T)	
	実感のある学び	学びをつなぐ
比べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較させる活動の工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習曲と題材で学習する曲の旋律の特徴を比較させることで旋律の特徴と曲想の関わりをより実感させる。</li> <li>・音楽を特徴付けている要素を、反映させた演奏としない演奏の曲想の違いを比べさせることで、要素を生かした表現のよさを実感させる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較したことを生かす工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材で学習する曲と対照的な特徴をもった既習曲を比較させ、思いや意図を表現するために必要な技能の違いに気付かせることにつなげる。</li> <li>・表現領域の題材で学習する曲に類似した特徴をもつ曲を鑑賞させることで、題材で学習する曲の表現の工夫につなげる。</li> </ul> </li> </ul>
動く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を動かす活動の工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律を手でなぞりながら歌わせることで、旋律の上行・下行などの特徴を実感させる。</li> <li>・感じ取った曲想に合わせて大きく体を動かす活動をさせることで、曲想を実感させる。</li> <li>・歌詞の内容から感じ取ったことを体の動きで表現させることで歌詞の内容を実感させる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を使って感じ取らせたことを生かす工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習曲の学習の際に旋律を手でなぞった軌跡を記録した掲示物を見せることで、題材で学習する曲についても同じ活動を通して理解を深めることができるのではないかとの見直しにつなげる。</li> </ul> </li> </ul>



<p>見る</p>	<p>○視覚的な働きかけの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞や曲想と児童の生活体験とを結び付けるような写真や映像資料を見せることで、曲のイメージを実感させる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えをカードに書かせ、交換して見合うことで様々な感じ方や考え方があることを実感させる。</li> <li>・拡大楽譜へ学習の記録を残す際に、学習内容によって色分けをすることで曲の特徴を実感させる。</li> </ul>	<p>○視覚的な活動を生かす工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の児童の発言や思いなどを児童の自筆のまま掲示することで、前時と本時の学びをつなげる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの題材につき一枚のワークシートを準備し、児童一人一人の学びの過程をつなげる。</li> <li>・児童が感じ取ったことや、気づきを付箋に書かせたものを掲示し、友達の付箋を見ることで自分と友達の考えをつなぐ。</li> </ul> 
<p>使う</p>	<p>○学びをすぐに活用させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が気付いたことをすぐに演奏で試させ、思いや意図を表現するために学習を生かしていることを実感させる。</li> <li>・グループや友達と互いの演奏を聴き合わせる学習活動を設定することで、思いや意図を音楽で表現していることを実感させる。</li> </ul>	<p>○前時までの学びを活用できる場面設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞領域での児童の気づきや思いを、題材で学習する曲の表現の工夫で使わせることで、学習内容をつなぐ。</li> <li>・題材で学習する曲の表現の工夫のために必要な技能を、他の曲を通じて習得させる経験をさせることで、技能を得ることと生かすことをつなぐ。</li> </ul>

以上の学習活動を取り入れることで、二つの観点の検証を行った。検証授業は第3学年と第4学年において、系統性のある題材を取り上げて実施した。第3学年では旋律の特徴を感じ取る学習を行い、第4学年では旋律の特徴を感じ取り、曲想を捉えた表現の工夫をする学習を行った。第3学年で本研究における教師の手だてにより旋律の特徴と曲想との関わりを実感を伴って捉えた児童が、第4学年では具体的な表現方法を工夫することを目指し、題材を構成した。

第3学年で本研究における教師の手だてにより曲のイメージから思いや意図をもって表現の工夫へつなぐ児童を育成する。そして第4学年では、曲のイメージを音楽の特徴として捉え、習得した技能を活用して表現の工夫をさせるという系統立った指導を意識し、検証を行った。

## V 実践事例

### 1 第3学年

(1) 題材名 「せんりつのとくちょうをかんじとろう」

(2) 題材の目標

- ・旋律の特徴を感じ取りながら、曲想を捉えて歌ったり、リコーダーで演奏したりするための表現の技能を身に付ける。  
「知識及び技能」
- ・旋律の特徴と歌詞との関わりを感じ取り、どのように表現したいか思いや意図をもつ。  
「思考力、判断力、表現力等」
- ・旋律の特徴と曲想との関わりに関心をもち、曲想を捉えて表現を工夫する活動に進んで取り組む。  
「学びに向かう力、人間性等」

(3) 学習指導要領との関連

[A表現・歌唱](1)ア、イ、ウ(イ)

[A表現・器楽](2)ア、イ(イ)、ウ(イ)

[共通事項] 旋律、音色、フレーズ

(4) 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 旋律の特徴が生み出す曲想を捉えて表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり、演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。	① 旋律の特徴が生み出す曲想を感じ取り、声の出し方や演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	① 曲想を捉えて表現を工夫するために、3拍子の流れにのって演奏する技能を身に付けている。 ② 歌詞の内容や旋律の特徴を理解し曲想を捉えて、曲の山などを表現する技能を身に付けている。

(5) 指導観

ア 題材観

本題材は、児童が題名や歌詞の内容から想像したことと、旋律の特徴との関わりに気付きやすいように、楽曲全体を通して旋律の特徴が一貫している楽曲を扱った。歌詞と旋律の特徴との関わりを旋律の上行、下行や強弱で捉えさせる。曲想と音楽の構造などとの関わりに気付き、それらを根拠として思いや意図を膨らませ表現の工夫ができるよう本題材を設定した。

イ 教材観

(ア)歌唱・器楽教材

「あの雲のように」 芙龍明子 作詞／作曲者不明／飯沼信義 編曲／ト長調 4分の3拍子

- ・大空に浮かぶ雲を見上げて夢を膨らませる心情を表す歌詞と、3拍子のゆるやかな順次進行の旋律から曲想を感じ取りやすく、表現の工夫をしやすい。
- ・無理なく柔らかい声を出すことのできる音域でつくられている。ゆったりとした3拍子の拍の流れにのって、レガートでのびのびとした歌声づくりが可能である。
- ・リコーダーでも演奏しやすい音域で構成されている。副次的な旋律がカノンのように追いかけるため、これまでの学習を生かして旋律を重ねて演奏することができる。

(イ)歌唱教材

「ふじ山」 文部省唱歌／巖谷小波 作詞／ハ長調 4分の4拍子

- ・富士山の雄大な姿を表す歌詞が旋律の動きにも表れているため、歌詞の表す情景を想像しながら曲想を感じ取ってのびのびと歌うことができる。また、旋律のまとまりや抑揚、曲の山をとらえやすく、上行、下行する旋律の特徴を富士山の姿に重ね合わせると、強弱を工夫しながら自然と歌い上げることができる。
- ・旋律は1オクターブ内の音できており、無理なく柔らかい声を出すことのできる音域で歌うことができる。

(6) 研究主題に迫るための手だて

「実感のある学び」と「学びをつなぐ」の二つの観点について、四つの手だてを意図的に取り入れる。

児童の学習活動 (c)	教師の手だて (T)	
	観点1 「実感のある学び」	観点2 「学びをつなぐ」
1 比べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あの雲のように」の旋律の特徴と曲の感じの関わりに気付くように、旋律の特徴を変えて歌ったり、比べたりする活動を取り入れる。</li> <li>・グループごとに気付きや考えを聞き合い、自分のグループと比較しながら表現する活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習曲「とどけようこの夢を」等と「あの雲のように」の旋律の特徴を比較する活動を取り入れる。</li> </ul>
2 動く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞のイメージを膨らませたり、拍の流れがより分かりやすいように身体表現を取り入れる。</li> <li>・旋律の上がり下がりを手でなぞったり動いたりする活動を取り入れる。</li> <li>・旋律をなぞって動いたり、歌詞の内容を体で表現したことを価値付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材曲について体を動かして感じ取ったことを音楽の視点で捉えることができるように、児童の発言に価値付けをする。</li> </ul>
3 見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容がイメージしやすいように拡大した歌詞、写真及び映像を示す。</li> <li>・曲想やイメージ、旋律の特徴、旋律の動きを教師の手の動きで示したり、拡大譜に書き込み全体で共有できるようにする。また内容ごとに色分けして示す。</li> <li>・感じたことや気付いたこと、学びを全体で共有できるように、付箋に書かせ、分類して掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が感じ取ったことや気付いたこと、思いを拡大譜に書き込んだり、児童が書いた付箋を内容ごとに分類し次時の学びに生かされるように掲示する。</li> <li>・グループごとに「ふじ山」の旋律を色鉛筆でなぞり、旋律の特徴について調べて付箋に書く活動を取り入れる。</li> <li>・「特徴」「曲の感じ」と色分けしたものは題材、年間を通して共通して示し、使用する。</li> </ul>
4 使う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴や曲想について気付いたり感じ取ったことを、歌ったりリコーダーを吹いて確かめたりする活動を取り入れる。</li> <li>・個人やグループで演奏を聴き合い、学んだことを使っているか確かめる活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返る場面を設定する。</li> <li>・前時の学習内容や共通事項の言葉、児童が書いた付箋やカードを掲示しておき、児童が学習を進めるときに主体的に活用できるようにする。</li> <li>・歌唱曲の旋律の特徴や曲想に合った歌い方の工夫をリコーダーの演奏の工夫に生かす場面を設定する。</li> </ul>

(7) 題材の指導計画 (全4時間扱い)

※ (2C4) 等は (6) 研究主題に迫るための手だてに対応

	●ねらい ○学習内容 ・学習活動	◇研究主題に迫るための手だて ◆評価規準 (評価方法) □価値付け
	●曲想を感じ取り、旋律の動きを捉えて歌ったり、リコーダーで演奏したりする。	
第1時	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>・既習曲を振り返る。(2C4)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T:「とどけようこの夢を」の曲の感じを覚えていますか? C: 元気で明るかったです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T:「翼をください」と「ちびっ子カウボーイ」の曲の感じはどうでしたか? C: きれいで元気でした。</p> </div> <p>○「あの雲のように」の旋律の動きを捉え、曲の雰囲気を感じ取って歌唱する。</p>	<p>◇これまでの学習を活用できるように歌唱活動を取り入れながら旋律の特徴を捉えるようにさせる。(2T4)</p> <p>◇学びをつなぐために前時までの教材を活用して視覚的な働きかけをする。(2T3)</p> <p>◇前時までの学習で比較したことを想起させるような歌唱活動を取り入れる。(2T4)</p>

第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲名を確認する。(1 C 3)</li> <li>・歌詞の内容を理解する。(1 C 3)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: 曲名や歌詞から想像するとどんな感じの歌だと思いますか？</p> <p>C: 優しい、きれい、ふんわりしている。</p> <p>C: 雲に乗りたくなって気持ちになる。</p> <p>T: イメージと同じか違うか、聴いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴いて、歌う。</li> <li>・体を揺らして4分の3拍子を感じ取る。(1 C 2)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取った曲の雰囲気を書きカードに書く。(1 C 3)</li> <li>・曲の雰囲気に合った声の出し方を工夫して歌う。(1 C 1)。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: 雲に乗りたいな、優しいなという気持ちで歌いましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: どうして今のような歌い方をしたのですか。</p> <p>C: 優しいから、フレーズの最後を丁寧に歌いました。</p> <p>C: 雲に乗ってみたいなっていう気持ちだから優しく歌いました。</p> <p>T: なるほど、いいですね。フレーズの終わりを丁寧に歌うことは大切なことですね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○旋律の動きと曲想の関わりを感じ取って歌う。</li> <li>・階名唱で旋律の動き(上行下行)を感じ取る。</li> <li>・記号(タイ)を確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山のポルカ」を演奏する。(2 C 1・2 C 3)</li> <li>・「あの雲のように」の旋律の特徴を感じ取る。(1 C 1)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: 「あの雲のように」が「山のポルカ」とは違う感じがするのは、どうでしょうか。</p> <p>C: 音符が細かくないからです。</p> <p>C: 音の上がり下がりが激しくないからです。</p> <p>C: なめらかな感じがするからです。</p> <p>C: 四分音符と二分音符が多いからです。</p> <p>T: 本当ですね。「あの雲のように」を歌って確かめてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の上がり下がりを手でなぞって確かめる。(1 C 2)</li> <li>・旋律の動きを理解して、拍子を感じながら気持ちを込めて演奏する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: 旋律の動きが速くなったり、激しくなったり、弾むような感じになったらどんな感じでしょう。</p> <p>C: 曲の感じが変わります。</p> <p>C: 歌詞の感じと曲の感じが合っています。</p> <p>T: 歌詞の内容と、旋律の動きは何かしら関係がありそうですね。試してみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇いろいろな雲の写真や映像を提示し、雲の様子を実感できるようにする。(1 T 3)</li> <li>◇歌詞の内容を理解させるために、行間に児童の気付きを加えられる空間を入れた歌詞カードを拡大して掲示する。(1 T 3)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇4分の3拍子の流れにのって身体表現する活動を取り入れる。(1 T 2)</li> <li>◇カードに記録し、掲示することで、感じ取ったことを視覚的にも残すようにする。(1 T 3)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>□児童の発言した、曲に合う歌い方について価値付けする。</li> <li>◆旋律の特徴が生み出す曲想を捉えて表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり、演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。関①〈行動観察・カード・発言内容〉</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇旋律の特徴が分かりやすいように拡大譜の旋律を線で示す。(1 T 3)</li> <li>◇既習の学習で活用した掲示物を活用することで視覚的に働きかける。(2 T 3)</li> <li>◇逆の表現をすることで楽曲のよさに気付かせる比較する活動を取り入れる。(1 T 1)</li> <li>□比較する活動で感じ取った発言を価値付けして児童が共有できるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇旋律の特徴(上がり下がり)実感できるように手でなぞったり、高さを表したりする活動を取り入れる。(1 T 2)</li> <li>◇曲の特徴や歌い方の工夫を思い出させて、リコーダーの奏法を確認したりできるようにする。(2 T 4)</li> <li>◆曲想を捉えて表現を工夫するために、3拍子の拍の流れにのって演奏する技能を身に付けている。技①〈演奏聴取〉</li> </ul>
-----	--	---

●「ふじ山」の歌詞の内容を捉え、曲の山を感じて歌う。

第3時

○歌詞の内容を理解し、曲の山を感じて歌う。  
・富士山についてイメージをもつ。(1C3)

T: 富士山ときいてどんなことを思いますか?  
C: 世界遺産です。  
C: きれい、高い、日本一大きいです。  
C: 浮世絵に出ています。  
T: 浮世絵ですか。この絵(浮世絵)を見てください。  
昔から富士山は日本人の誇りで、大切にされてきました。日本で歌い継がれてきた富士山への思いがこもった歌を紹介します。

・歌詞を読み情景を想像したり、分からない言葉を確認したりする。(1C3)

T: 歌詞を読んで、写真や絵画から感じ取ったイメージと重なるところや、自分の思った富士山と同じ様子を表している言葉はありましたか。  
C: 「ふじは日本一の山、あたまをくものうえにだす」の部分です。

T: この曲の中で1番に伝えたい言葉はどこにあると思いますか。  
C: 「ふじは日本一の山」の部分です。  
T: それはどうしてでしょう。  
C: 日本一高い山だからです。  
C: 1番と2番で同じことを言っているからです。

・曲から感じ取った富士山を身体で表現する。(1C2)  
・グループの友達と歌いながら身体表現する。  
・歌詞と表現の関わりを確認し友達と表現を見合う。

T: ふじ山の雰囲気がよく伝わってきました。今後は、歌ってふじ山の雰囲気が伝わるようになるといいですね。  
T: ここの声の強さが変わったように感じたけれどどうですか?  
C: 「ふじは日本一の山」という歌詞だからだと思います。  
T: なるほど。だから声が大きくなったのですね。  
C: 大きい声で強く歌いたくなりました。

・1番2番を通して歌う

T: 歌で歌詞の雰囲気を伝えるためには、何が必要でしょうか。  
C: 歌詞を丁寧に歌います。  
C: 堂々と強く歌いたい。声を響かせて歌いたい。  
C: きれいな声で歌いたい。  
C: 歌詞の内容を想像しながら歌いたい。

・曲の雰囲気に合った歌い方についてカードに書く。

◇児童の思いを引き出せるように、富士山の写真を掲示する。(1T3)

◇児童の発言を受けて、富士山についての資料を提示し解説し、イメージをより膨らませることができるようにする。(1T3)

◇歌詞の理解を深めるために、歌詞を拡大し掲示する。(1T3)

◇児童が発した疑問やつぶやきを捉えて書き込みをしながら児童が抱いた富士山のイメージを共有できるようにする。(1T3)

□児童が感じ取った歌詞のイメージを価値付けしながら歌唱活動への関心を高めさせる。

◇歌詞を手掛かりにして感じ取った曲の雰囲気を身体で表現する活動を取り入れて、「曲の山」を理解する学習につなげる。(1T2)

□グループ活動を取り入れ、イメージした富士山の表現を友達と共有しながら活動させる。歌詞のイメージに合う児童の表情や表現を価値付けする。

◇児童の活動に対する価値付けをしてどう歌いたいか歌唱活動に対する思いや意図を言葉で伝えられるようにし、カードに記録する活動を理解できるようにする。(2T2・2T4)

◆旋律の特徴が生み出す曲想を感じ取り、声の出し方や演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。創①〈行動観察・カード・発言内容〉

●歌詞の内容と旋律の特徴を捉えて曲想を工夫して歌唱する。

第4時

- 旋律の特徴に気付いて、ふじ山を表す歌い方を工夫して表現する。
- ・前時でイメージした歌い方の工夫を試しながら歌う。(2C2・3)
- ・曲の山を理解して表現する。

T: 大きな声で歌いたくなくなるところがありましたね。  
 C: 「ふじは日本一の山」のところですか。  
 T: それはどうしてでしたか?  
 C: 一番伝えたいところだったからです。  
 T: そうでしたね。歌詞も気持ちも高まる場所がありましたね。それを何といいますか?  
 C: 曲の山です。

T: 曲の山の旋律はどのようなになっているのでしょうか。  
 C: 楽譜を見たいです。  
 T: それはいいですね。詳しく見ましょう。  
 C: おんぷを見ますか? 旋律を見たらいいですか?  
 T: 旋律を見ていきましょう。

- ・旋律をフレーズごとになぞりながら歌う。
- ・旋律の動きを身体表現する。(1C2)
- ・グループで旋律の動きを確認したり、旋律に色をつけて動きを目で確かめたりする。
- ・色付けした旋律や、感じ取った旋律の動きや歌詞との関わりを手掛かりにして、ふじ山の様子や大きさを伝えるための歌い方を考える。

T: グループで気付いた旋律の特徴と歌い方についてみんなに教えてください。  
 C: 曲の山のところは高い音から始まっていた。  
 C: たくましくかっこよく歌う。  
 C: 堂々ときれいに歌う。  
 T: 皆さん、歌って確かめていきましょう。

- ・グループの発表を聞き合い、表現を比べながら確かめる。(1C1・1C2)

T: ふじ山の様子ที่ 伝わる旋律の特徴を見つけましたね。見つけた特徴とふじ山の様子を大切に歌いましょう。  
 T: 歌い方で大切にすることは?  
 C: きれいな声、ひびく声、明るい声で歌います。  
 C: 丁寧に歌います。  
 C: 息をしっかり準備します。  
 C: 姿勢をよくして声をおなかから響かせます。  
 T: ふじ山の姿が伝わるように意識して歌えましたか?

- ・1番と2番を通して歌う。
- ・友達と感想の交流をする。(1C3・2C3)

◇前時に書いたカードと拡大した歌詞を掲示して感じ取っていたことを発言しやすくする。(2T3)

□前時の学習で感じ取ったことを手掛かりにしながら、曲の山を理解するように児童の発言を価値付けする。

◇前時までの楽譜を掲示して旋律に注目した活動につなげて何に注目して楽譜を見るのかの手掛かりにできるようにする。(2T3・2T4)

□旋律をなぞったり、歌ったりして感じ取った児童の発言を価値付けし表現に活用できるようにしていく。

◇旋律の動きを体で表現する活動を取り入れる。(1T2)

◇グループ活動用のプリントと全体で共有するための拡大譜を2種類用意する。(1C3)

◇他のグループの発表と自分のグループを比較しながら表現の工夫を考える活動を取り入れる。(1T1)

◇グループで考えたり感じ取ったりしたことを互いに表現し合いながら深める活動を取り入れる。(1T2)

□児童の気付きや表現の変化、旋律の動きを意識して歌うことで歌詞から伝わるふじ山の様子も感じ取りやすくなったことを価値付けする。

◆歌詞の内容や旋律の特徴を理解し曲想を捉えて、曲の山などを表現する技能を身に付けている。技②(演奏聴取)

## 2 第4学年

(1) 題材名 「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」

(2) 題材の目標

- ・旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気づき、楽曲の特徴を捉えた表現の技能を身に付ける。 「知識及び技能」
- ・旋律の特徴や曲想との関わりが生み出すよさや面白さを味わいながら楽曲の特徴を捉えどのように表現するかについて思いや意図をもつ。 「思考力、判断力、表現力等」
- ・旋律の特徴と曲想との関わりが生み出すよさや面白さに関心をもち、友達と音を合わせて演奏する学習に進んで取り組む。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 学習指導要領との関連

- [A表現・歌唱] (1) ア、イ、ウ(ウ)
- [A表現・器楽] (2) ア、イ(ア)、ウ(イ)
- [共通事項] 旋律、音色、強弱、音の重なり

(4) 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 旋律の特徴を捉えた表現の工夫をする学習に関心をもち、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習にすすんで取り組んでいる。	① 旋律の特徴を感じ取り、楽曲のよさや面白さを味わいながら、思いや意図をもって曲想を捉えた表現の工夫をしている。	① 「陽気な船長」の旋律の特徴を生かして演奏するために必要なレガートやスタッカートの奏法を身に付けている。 ② 「ゆかいに歩けば」の曲想を生かして歌うための自然で無理のない歌唱の技能を身に付けている。

(5) 指導観

ア 題材観

本題材は、旋律の特徴を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現したり、旋律や曲の特徴を捉えた表現の仕方を工夫して演奏したりすることができるようになるように設定した。旋律の特徴に共通点が多い二つの楽曲を通して、学びのつながりを実感しやすい題材構成にした。

イ 教材観

(ア) 歌唱教材

- 「ゆかいに歩けば」 保富康午 日本語詞／メラー 作曲／加賀清孝 編曲 ハ長調
- ・4分の4拍子 A (a8+a'8) +B (b8+b'8) の二部形式。
  - ・マーチ風のリズムにのせて歌う楽曲である。
  - ・弾んだ感じの $\boxed{\text{ア}}$ 、上行して盛り上がる感じの $\boxed{\text{イ}}$ を歌い分けることができる。
  - ・歌詞の内容と旋律の特徴を感じ取りやすい教材である。

(イ) 器楽教材

- 「陽気な船長」 市川都志春 作曲 ハ長調
- ・4分の4拍子 A (a4+a'4) +B (b4+b'4) +A (a4+a'4) の三部形式。
  - ・旋律の感じの違いを味わうことができる楽曲である。
  - ・跳躍進行を中心とした弾んだ感じの $\boxed{\text{ア}}$ と、順次進行を中心とした滑らかな感じの $\boxed{\text{イ}}$ の対比が明確で旋律の特徴を感じ取りやすい教材である。

(6) 研究主題に迫るための手だて

「実感のある学び」と「学びをつなぐ」の二つの観点について、四つの手だてを意図的に取り入れる。

児童の学習活動 (C)	教師の手だて (T)	
	観点1 「実感のある学び」	観点2 「学びをつなぐ」
1 比べる	・「ゆかいに歩けば」の同じ旋律を、スタッカートをつけた歌い方とレガートでの歌い方の両方で試し、表現を比較させる。	・「陽気な船長」と「ゆかいに歩けば」の楽譜を比較し、共通の表現を確認することで、旋律の特徴を意識して表現に生かすことができるようにする。

2 動く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を、身体を使って表現することで体感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が思いや意図をもったことを実際に演奏して試す活動を取り入れることで、知識や技能が生かされるようにする。</li> </ul>
3 見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足での登山の写真を提示し、振り返ることで、児童の生活体験と「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴や曲想とを結び付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「陽気な船長」の旋律の特徴であるスタッカートをはずした拡大楽譜を掲示し、旋律の動きだけに注目しやすいうにする。</li> <li>・「陽気な船長」を演奏して感じた思いや意図を付箋に残しておき、それを整理して掲示し、振り返ることで「ゆかいに歩けば」の学習に活用できるようにする。</li> <li>・児童が実感したことをワークシートに記入して残すことで次時に活用できるようにする。</li> <li>・「ゆかいに歩けば」を歌い、実感したことをカードに記述し、それを板書に貼るのを見せるだけでなく、ときには貼ってあったカードを剥がすのを見せることにより、その音楽に変化があったことや、その音楽の特徴に気付くことができるようにする。</li> </ul>
4 使う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴を生かして演奏するために、児童の気付きを演奏で試させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容や共通事項の言葉、児童が書いた付箋やカードを掲示しておき、児童が学習を進めるときに主体的に活用できるようにする。</li> </ul>

(7) 題材の指導計画 (全4時間扱い)

	●ねらい ○学習内容 ・学習活動	◇研究主題に迫るための手だて ◆評価規準 (評価方法) □価値付け
	●「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を捉えて、歌い方を工夫する。	
第1時	<p>○曲想を感じ取り特徴を捉えた歌い方の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を朗読し、歌詞の内容を感じ取る。</li> <li>・「ゆかいに歩けば」の範唱CDを聴く。(2C4)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: どんな感じがしましたか? C: 弾んでいるところとなめらかなところがあります。 C: 初めの部分は、前に鑑賞で聴いた曲と少し似ている感じがしました。 C: 強弱があって楽しい。アとイの二つの旋律があります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズごとに模唱しながらアとイを歌う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: アとイを歌ってどんな感じがしましたか? C: アは弾む、イはなめらかな感じがします。 C: イはのぼす音と弾む音が両方あります。 C: イはのぼす音がだんだん高くなっています。 T: アとイで旋律の特徴に違いがみられますね。それではどのように歌えば、この曲がもっと面白くなるか考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。(1C3)</li> <li>・楽譜を見て旋律の特徴を捉える。</li> </ul>	<p>◇前時の学習で使用した掲示物を示したり、児童の発言に応じたりしながら、児童がこれまでの学びを活用して、新しい楽曲の特徴を捉える手掛かりにさせる。(2T4)</p> <p>□児童の発言について価値付けをして表現活動につなげられるようにする。</p> <p>◇学習の見通しをもてるようにめあての示し方を分かりやすくする。(1T3)</p> <p>◇拡大楽譜を掲示して、旋律の特徴を捉えやすくする。(1T3)</p>

	<p>T: <input type="checkbox"/>の部分で歌っていて他に何か気付いたことはありますか？  C: 4分音符が多いです。時々8分音符があります。  C: 楽譜の2段目は旋律の音の上がり下がりがあります。</p> <p>T: 楽譜を見て歌って気付いたことがありますね。どのように歌いたいですか？  C: 8分音符は、4分音符よりも短いから軽やかに歌いたいです。  C: 2段目のきらきらは旋律が高くなっているからおひさまがきらきらするように歌いたいです。</p> <p>・「ゆかいに歩けば」の<input type="checkbox"/>の部分を身体を動かして歌う。(1 C 2)</p> <p>T: どんな感じがしましたか？  C: 歌はずんできた感じがします。  C: お日様がきらきらした感じになってきました。</p> <p>・「ゆかいに歩けば」の<input type="checkbox"/>の部分を歌う。(1 C 1)  ・感じ取ったことを歌声に生かして通して歌う。  ・ワークシートに記入する。</p>	<p>◇旋律の特徴を身体を使って表現して実感できるようにする。(1 T 2)  <input type="checkbox"/>体を使った活動を通して児童の感じ取ったことを発言させ価値付けをする。  ◇特徴の違う二つの旋律をそれぞれに体を使って表現して比較することで感じ取れるようにする。(1 T 1)  ◆旋律の特徴を捉えた表現の工夫をし、思いや意図をもって歌う学習にすすんで取り組もうとしている。関①〈行動観察・発言内容・演奏聴取・ワークシート〉</p>
<p>●「陽気な船長」の旋律の特徴を感じ取り、曲想を捉えた表現の工夫をして演奏する。</p> <p>第2時</p>	<p>○旋律の特徴を感じ取って曲に合う表現を工夫する  ・「陽気な船長」の楽譜を見る。(1 C 3・2 C 4)</p> <p>T: 「陽気な船長」というタイトルからイメージすることはありますか？  C: 船の上でのんびりしている感じです。  C: 海賊よりも強そうです。  T: 旋律の動きを見て気付いたことはありますか？  C: <input type="checkbox"/>は弾んでいて、<input type="checkbox"/>は平らな感じですか？  C: <input type="checkbox"/>は動きがあってたくさん音符があります。<input type="checkbox"/>はのばす音が多いです。</p> <p>・「陽気な船長」を演奏する。(スタッカートなし)</p> <p>T: <input type="checkbox"/>の部分のなめらかな感じの演奏は、これまでに学習したレガートとタンギングを使って演奏するといいますが、<input type="checkbox"/>の部分はどうかしたらより弾んだ感じになるでしょう。  C: 強くしてタンギングをする。  C: 切るようにする。  C: ゆかいに歩けばにあったスタッカートをつかう。</p> <p>・タンギングや息の使い方を工夫してスタッカートで演奏を試してみる。(2 C 4・1 C 1)</p> <p>T: <input type="checkbox"/>をスタッカートにしたらどのような感じがしましたか？  C: より弾むような感じになりました。  C: 「陽気な船長」の曲想により合う感じになりました。</p> <p>・<input type="checkbox"/>と<input type="checkbox"/>の旋律の特徴を生かして演奏する。</p>	<p>◇旋律の特徴であるスタッカートをはずして旋律の動きだけに注目しやすように拡大楽譜を掲示する。(1 T 3)  <input type="checkbox"/>楽譜から感じ取った児童の発言を価値付けして特徴を捉えさせる。</p> <p>◇前時までの学習を活用できる場面の設定をし、より特徴を表現する工夫について考えさせる。(2 T 4)  ◇スタッカートを使った演奏と使わない演奏の比較をさせ、違いを感じ取った上でどちらの演奏が旋律の特徴を生かしているかを考えさせる。(1 T 1)  ◇音楽記号の掲示の中からスタッカートに注目させて前時の学習とのつながりを想起させる。(2 T 4)</p>

	<p>T: <input type="checkbox"/>の弾む感じ、<input type="checkbox"/>のなめらかな感じを表現するために、何に気を付けましたか？</p> <p>C: タンギングと息の使い方に気を付けました。</p> <p>C: スタッカートを意識しました。</p> <p>C: 弾んだ感じとなめらかな感じを意識しました。</p>	<p>◇児童の発言から前時の学習で使った掲示物を提示し、既習事項を活用できる場面をつくる。(2 T 4)</p> <p>◆「陽気な船長」の旋律の特徴を生かして演奏させるためにレガートやスタッカートの奏法を身に付けている。技①(演奏聴取)</p>
<p>第3時</p>	<p>●「ゆかいに歩けば」の曲想を捉えた歌唱表現の工夫をする。</p> <p>○旋律の特徴を生かして、曲に合った表現の工夫をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの旋律の特徴を生かして「陽気な船長」を演奏する。(2 C 4)</li> <li>・拡大楽譜を見て、共通の表現を見付ける。(2 C 4)</li> <li>・「ゆかいに歩けば」を歌う。(2 C 3)</li> </ul> <p>T: 旋律の特徴について見てみよう。「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴は、どのようになっていましたか？</p> <p>C: <input type="checkbox"/>は弾む <input type="checkbox"/>はなめらかな感じでした。</p> <p>T: 「ゆかいに歩けば」<input type="checkbox"/>の部分のスタッカートはどんな感じで表現したいですか？</p> <p>C: <input type="checkbox"/>ははずむ感じで明るく表現したいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴を生かすように工夫しながら歌う。</li> </ul> <p>T: もしも<input type="checkbox"/>の部分からスタッカートがなくなったらどのような感じになるでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆかいに歩けば」の<input type="checkbox"/>をレガートで歌う。(1 C 1)</li> </ul> <p>C: ゆかいな感じがなくなりました。</p> <p>C: 明るい楽しい感じがなくなりました。</p> <p>T: スタッカートがなくなると、旋律の特徴を生かした表現につながらなくなってしまいますね。</p> <p>T: 旋律の特徴をより表現するためにスタッカートをつけて<input type="checkbox"/>の部分を歌ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆかいに歩けば」の<input type="checkbox"/>を歌う。</li> <li>・楽譜から旋律の音の上がり下がりや強弱の関係を読み取る。</li> <li>・「ゆかいに歩けば」の<input type="checkbox"/>の部分を歌う。</li> </ul> <p>T: <input type="checkbox"/>の旋律に、音がだんだん高くなっている部分はどうのように歌うといいですか？</p> <p>C: 歌詞の内容に合わせて強くしていきたい。</p> <p>T: 「だんだん強く歌う」のはなぜですか？</p> <p>C: のばす音がだんだん高くなっていて、曲の山のようになっているからです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足での登山の写真を見て、その時の気持ちを振り返る。</li> </ul> <p>T: 「曲の山のようになると強く歌う」のはなぜですか？</p> <p>C: 山登りはエネルギーがたくさん必要で、山に登ったときの気持ちと似ている感じがするからです。</p> <p>C: 山の頂上に着いたときはうれしかったからです。</p>	<p>◇前時までの学習を活用できるように掲示物を示す。(2 T 4)</p> <p>◇「陽気な船長」と「ゆかいに歩けば」の拡大楽譜を掲示し、共通の表現を見付けさせる資料にする。(2 T 3)</p> <p>□児童の既習事項と共通する記号や音楽の要素に気付きについて価値付けし、表現の工夫に生かさせる。</p> <p>◇スタッカートがある演奏とない演奏の比較を通して違和感や心地よさを感じ取りより旋律の特徴を生かす表現につなげさせる。(1 T 1)</p> <p>□児童の感じ取った違和感と、旋律の特徴を生かす演奏のよさについて価値付けをし、確かな実感をもって表現できるようにする。</p> <p>◇拡大楽譜とペア学習用の楽譜を用意し、旋律の動きを色付けしたりしながら理解できるようにする。(1 T 3)</p> <p>◇遠足での登山の様子を振り返りその時の気持ちを共有できるように写真を掲示する。(2 T 3)</p> <p>□児童の歌唱から、呼吸や発音の仕方に気を付けて歌うことで表現が深まることを価値付ける。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の山を意識しながら歌う。(2 C 3)</li> <li>・呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う。</li> <li>・ペアで互いに聴き合って確認する。</li> <li>・「ゆかいに歩けば」を通して歌う。</li> </ul>	<p>◆旋律の特徴を感じ取り、楽曲のよさや面白さを味わいながら、思いや意図をもって曲想を捉えた表現の工夫をしている。 創①〈行動観察・演奏聴取・ワークシート〉</p>
第4時	<p>○副次的な旋律を理解し、曲の特徴を生かした工夫をして合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「陽気な船長」と「ゆかいに歩けば」の楽譜を比較して表現の共通点を確認する。(2 C 1)</li> <li>・旋律の特徴を意識して歌う「ゆかいに歩けば」を歌う。(2 C 2)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T: 歌ってみてどんな感じがしましたか? C: よく歌えるようになりました。 C: スタッカートや強弱の変化が足りないと思います。 C: 「陽気な船長」を演奏したときはもっとスタッカートやレガートを意識できていました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大楽譜を見て、副次的な旋律の動きを確認する。</li> <li>・副次的な旋律の特徴を感じ取って歌う。</li> <li>・パートに分かれて歌う。(1 C 2)</li> <li>・パートごとに発表し表現のよさを確認し合う。(1 C 1)</li> <li>・全体で合唱をする。(1 C 4)</li> <li>・掲示を見て、音楽の諸要素の中から「音の重なり」について確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T: 二部合唱は、一人ではできない音楽の楽しさや豊かさがあります。どのような「音楽の諸要素」が働いていると思いますか? C: 音楽が重なっています。 C: 旋律が重なっています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆかいに歩けば」を全体で二部合唱する。</li> <li>・二つのグループに分けた二部合唱を聴き合う。(1 C 4)</li> </ul>	<p>◇前時までの2曲の楽譜を掲示し比較して確認できるようにする。(2 T 1)</p> <p>□児童の気づきを価値付けする。</p> <p>◇副次的な旋律の動きを理解できるよう拡大楽譜を掲示する。(1 T 3)</p> <p>◇パートごとの活動を取り入れて声を合わせて歌わせることで旋律の理解を深めさせる。(1 T 2・1 T 1)</p> <p>◇音楽の諸要素の掲示物の中から「音の重なり」に注目させて確認させる。(1 T 3)</p> <p>◇互いに聴き合う場面を設定し聴き合いながら表現のよさや工夫を確認したり表現に生かしたりできるようにする。(1 T 4)</p> <p>◆発声の仕方に気を付けて、「ゆかいに歩けば」の曲想を生かした自然で無理のない歌唱の技能を身に付けている。技②〈行動観察・演奏聴取・ワークシート〉</p>

## VI 研究の成果と課題

### 1 成果

本研究では、研究主題を踏まえ児童が思考・判断し表現する一連の過程を大切にした指導の工夫についての研究と検証を行った。以下、検証授業による成果を整理する。

#### (1) 「実感のある学び」を実現し、「学びをつなぐ」ための工夫

児童の視点に立った教師の手だてが有効であったかについて、次のような成果があった。

- ア 比べる 楽曲を特徴付けている要素を変えた表現を聴かせたり試させたりすることで、諸要素の働きをより実感させることができた。また、その学びを、児童が次時の表現の工夫の根拠として捉え、活用する姿が見られた。
- イ 動く 旋律の動きを体を使って大きな動作で感じ取らせたことで、旋律の上行・下行や重なりなどについて、より理解を深めさせることができた。また既習曲と関連させた学習の中で、体を使って感じ取ったことを思い出し、題材で学習する曲の特徴を理解に生かして表現の工夫をしようとする姿が見られた。
- ウ 見る 前時に実感した学びを、自筆の付箋の掲示などで視覚的に示すことで、学習内容に対してより身近に捉えるようになり、学習意欲を高めることができた。また、曲の特徴を色分けして示すことも曲の特徴の理解に有効であった。次時以降の学習でも児童が自ら前時の学びとのつながりに気付き、活用する姿が見られた。
- エ 使う 学んだことがその授業時間内ですぐに生かされるようにした工夫は、他者と共有・共感させることでより実感のある学びとなっていた。また、前時までの学習を基にして、曲の特徴の相違に気付いたり、表現の工夫につなげたりする姿が見られた。

以上の成果は、教師の発問の工夫により学習内容と既習事項や共通事項との関連付けがより効果的に行われたこと、また、追発問によって児童の思考がさらに深まっていったことに支えられている。さらに教師による価値付けがねらいに対して明確な意図をもってなされることが、次の学習へと児童の意識をつなげるために重要であることが分かった。

#### (2) 「実感のある学び」と「学びをつなぐ」との往還

「実感のある学び」を思考、判断のよりどころとすることで、学習意欲が高まり、次の学習で学びをつなごうとする児童の変容が見られた。この往還を踏まえ、児童の多様な思考を想定した意図的な題材設定をすることにより、実感のある学びを実現できた。

### 2 課題

児童がどのように表現したいか思いや意図をもったとき、その思いや意図を表現するための技能をどのように育成するかについて課題が残った。

また、領域の違う題材を児童の思考・判断・表現の過程を踏まえて設定するためには、さらに児童の視点と育成したい資質・能力との関係を研究し、題材構成を工夫する必要がある。

今後も研究を継続し、多様化する児童の実態や発達段階に即して授業改善を行い、児童の学びの質をより高めていくことが必要である。

平成 31 年度 (2019 年度) 教育研究員名簿

小学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 中 央 小 学 校	主幹教諭	長 尾 静 代
世 田 谷 区 立 烏 山 北 小 学 校	教 諭	◎大 家 昌 子
杉 並 区 立 三 谷 小 学 校	主任教諭	関 淳 二
豊 島 区 立 南 池 袋 小 学 校	主任教諭	永 井 佳代子
東 村 山 市 立 北 山 小 学 校	主任教諭	上 田 美由紀

◎ 世話人

[担当] 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
指導主事 稲 満美

平成 31 年度 (2019 年度)  
教育研究員研究報告書  
小学校・音楽

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849